

防災活動で家族の絆を深めよう

～親子防災ルールブック作成で対話を深める～

豊田市立美山小学校PTA

1 学区及び学校の概要

豊田市の西部に位置し、自動車の町としてトヨタの工場に囲まれた環境にあり、全児童数 776 人、支援学級を含め 28 学級と市内でも大規模校となっており、創設 54 年目を迎え歴史と伝統を重んじ、受け継ぎながら、本年度より支援地域本部の立ち上げなど、学校・保護者・地域の連携を密にし、新しい事にも積極的に取り組み盛んな小学校です。

2 研究のねらい

東日本大震災等多くの災害が発生している中、「自助」の大切さがメディア等でも展開されており、家庭内の防災力向上が重要視されています。

このことから、PTAの取り組みとして家族の絆を深める活動と合わせ、防災力向上を取り上げて追及することにした。

3 研究の仮説

家庭内で行われている防災活動は、保護者主体で行われていることが大半を占めるとされる。

親子・家族で話し合いながら共有・共感できる防災活動を行うことで、家庭力・防災力が向上するのではないかと推測、取り組むこととした。

3 研究の方法

(1) 活動内容の設定と取り組み

PTA役員で各種防災研修会への参加を行い、取り組み内容の選定を行った。

また、行事開催時期については、本校で毎年行われている「親子事業」という学校・PTAで共催する、例年物作りやスタンプラリーが行われる日程をあてることとした。

活動内容としては、防災ハンドブック作成による知識向上と合わせ、新聞紙スリッパ作り・暗闇避難体験を計画した。

・防災ハンドブック

親子で防災に対する知識を深めると共に、災害発生時の親子ルール決めなど「親子で話し合いながら、ハンドブックの空白を埋めていく」手法を選定した。

・新聞紙スリッパ作り

災害発生時の緊急手段を親子で勉強、普段身の回りにあるものでスリッパを作成し、どのように役立つのか考えてもらう。

・暗闇避難訓練

体育館に暗幕を張り、夜間電気が使用できない状況下での避難を想定した、避難訓練を実施。

ペットボトルキャップや跳び箱等を利用して障害物を設置し、暗闇の避難がどれだけ困難かを体験することで、常備灯の設置や寝室の防災対策の重要性を認識してもらうこととした。

(2) 研究方法について

事業完了後に各家庭にてアンケートを記入してもらい、諸活動で家庭内にどのような影響・効果があったか確認することとした。

4 研究の実践

10月23日に行われた親子事業本番において、前項で計画した内容を実践。

親子で、和気あいあいと行事に取り組む姿が見られ、特に暗闇体験においては、「実際にあるかも知れないよね」「わたし用に、ライトが欲しい!」といった声が聞かれ、活動のねらいと合致した結果が得られた。

また、時間が余ってしまった家庭同士では、お互いの家庭防災について語られる姿が見え、家庭内だけでなく、地域に渡って考える時間となり、有意義な活動であったと思われる。

5 研究の考察

事業終了後、アンケートをとった結果、実家庭663中404家庭からの回答があり、下記のような集計結果となった、以下各項目について説明する。

(1) ルールブックの内容について

まったく役に立たない・・・4

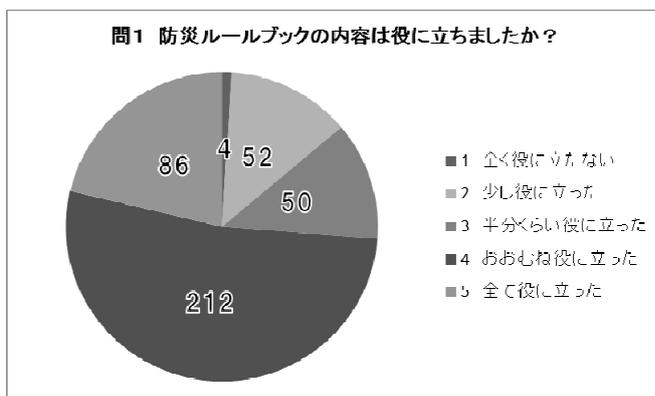
少し役に立った・・・52

半分くらい役に立った・・・50

おおむね役に立った・・・212

全て役に立った・・・86

半数以上がおおむね役に立ったと回答があり内容選定のねらいと合致する結果となった。



(2) 事業後の親子の話し合いについて

していない・・・95

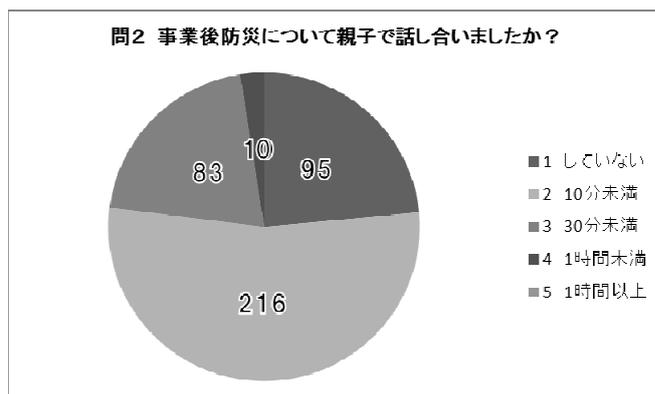
10分未満・・・216

30分未満・・・83

1時間未満・・・10

1時間以上・・・0

大半が10分未満と、事業終了後の会話が少なく、成果が上がらなかった。



6 成果と今後の課題

今回の研究において、親子で会話しながら知識を向上させるという点において、相応の評価・効果を上げることができたが、事業終了後まで効果が波及しなかった。

このことを踏まえ、家庭力向上についてまだまだ向上の余地と研究の必要性を感じると共に、学校側と協力しつつ、家庭内学習の強化を図る方向性が見えて来たといえる結果になりました。

今後もこのような行事を重ね、親子の絆を深め、親子で勉強できる機会をつくり、定着させていくよう努力していきたい。

